

世界史B 連絡

5月も中旬となりました。学習の進捗状況はいかがでしょう。おそらく、「いくら取り組んでも不安だ」「これでいいのか」ということもあると思います。それは、今まで取り組んできたことを出す機会がないことによるものです。出す機会がないからどのようなものか分からないというものです。学校が再開すれば、定期考査も模試もあります。やってきたことを出す場があります。それまで気持ちを切らさないようにやっていきましょう。

また、現状ではスタディサプリの確認テストがあります。気分転換も含め、活用して行きましょう。そして、この機会に、関心のある講座は視聴しておきましょう。少し関心を広げることが身を助けることも多くあります。

それで、世界史について、受験という観点からも、早めに一度は全範囲を確認しておくことが肝要です。全く知らないゼロの状態では自分自身が損をします。少しでも見ておくとその部分がキッカケとなって学習を広げることができます。

ということで、今回は、**第3弾(5月末～6月中旬の分)**として、学習ノートP.70～85の範囲について、通常は板書するところを伝えていきます。これまでの通常の授業と同じように学習ノート奇数ページに記録してください。すでに問題に取り組んでいる人は再確認をすることができますし、これからの人はしっかりとしっかりと確認しつつ問題もやっておいてください。

- * 気が付いている人も多くあると思いますが、通常では不可能な写真を入れたり、資料を入れたりしています（作成しているうちに“あれ”も“これ”もとなっています）。もちろん、写真をノートに記入するような要求はしませんが、写真の人物について調べることも大きな学習になります。一つの気分転換になればと思います。

動画はありませんが、授業と同じです。皆さんの自学自習の支援です。

学校再開後、ホームページで伝えた部分については、ノートも記入されていることを前提に進めることとなります。当然、考査の範囲にもなりますし、受験の範囲にもなります。

休校期間は皆さん自身が試されている期間でもあります。自分で考えて時間を使う（時間を創造する）ことができます。まさに「腕の見せ所」です。“あと少し”をあきらめずにチャレンジを続けましょう。

- * 日常の授業で黄色のラインをしていた部分にはアンダーラインを、人名は赤字で示しています。
- * 状況を見ながら、**第4弾(当初予定で6月中旬～1学期末までの分)**として学習ノートP.86～114の範囲の板書を伝えていきます。ここまでくれば、現代社会で学習したことと合わせ、ほぼ全範囲をクリアとなります。その際、学習ノート奇数ページの()の記入、偶数ページの設問もやっておきましょう。

注意:絶対にSNSでの拡散などをしないようにしてください!!

休校期間中に“キッチリとした生活リズム”を確立しましょう。朝は、通常の時間に起床しましょう。受験生として、高校3年生として、計画的に学習を進めましょう。受験は昼間に実施されますので昼型の学習スタイルを確立しましょう。夜になったら頭が冴えるのだけれど昼間は眠くて仕方がないということでは自分自身が損をします。今は昼型のスタイルを確立するチャンスかもしれませんよ。

(学ノート P. 70~79)

帝国主義

19世紀以降、独占資本主義段階に達した列強間での植民地獲得競争

要因：第2次産業革命(重化学工業中心、石油・電力を動力源とし大工場による大量生産開始)

大企業+銀行 → 独占資本形成(ルドルフ=ディーゼル、ゴットリーブ=ダイムラー、ヘンリー=フォード、クルップ、ロックフェラー…)

→ 米独：国力向上、英：凋落…

英：「世界の工場」→「世界の銀行」

コブデン(1804~1865 政治家、自由貿易推進論者)：植民地支配の無駄指摘、国防費削減訴え
植民地維持のため

非白人の多い植民地 → 直接支配 例：1877 インド帝国

白人主流の植民地 → 自治領として間接支配 例：1867 カナダ、1901 濠、1907 新西蘭、1910 南ア

ディズレーリ(任 1868、1874~1880 保守党)：保護貿易主張、帝国主義政策推進

1875 スエズ運河会社株式買収 → インドへの道を開拓

1877 インド帝国(皇帝：**ヴィクトリア女王**)成立 → 直接支配

1878 露土戦争介入 → ベルリン条約 → 露南下阻止、キプロス行政権獲得 → エジプト侵略の足掛かり



グラッドストーン(任 1868~1874、1880~1885、1886、1892~1894 自由党)

：平和外交、内政改革重視(選挙法改正、アイルランド問題)

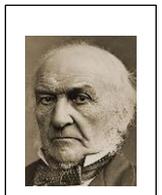
1881 エジプト ウラービーの反乱「エジプト人のためのエジプト」 → 1882 鎮圧、保護国へ

1884 第3回選挙法改正 → 農業・鉱山労働者へ選挙権

フェビアン協会設立(ロンドン **ウエップ夫妻・バーナード=ショー**) → 1906 労働党へ

1886 アイルランド自治法案提出 → 廃案

1893 アイルランド自治法案提出 → 廃案



ソールズベリ(任 1884~1886、1886~1892、1895~1902 保守党)

1898 ファショダ事件(英：アフリカ縦断政策 vs. 仏：アフリカ横断政策)

1899 南アフリカ戦争(ケープ植民地首相**セシル=ローズ** 英植民地相**ジョセフ=チェンバレン**支援)

* 1860年代、ドランスヴァール共和国、オレンジ自由国(ブール人建国)にダイヤモンド鉱山発見

→ **セシル=ローズ**：両国を狙う、英本国も支援 → 焦土作戦展開

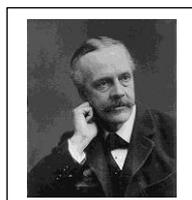
1902 トランスヴァール共和国、オレンジ自由国を英領へ → 3C政策

1902. 1. 30 日英同盟 → ロシア牽制



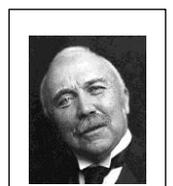
バルフォア(任 1902~1905 保守党)

1904 英仏協商 → ロシア牽制



バナマン(任 1905~1908 自由党)

1906 英：ブール人へ先住民バンツール族への優越を前提の自治権付与 → アパルトヘイト



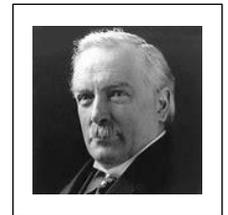
アスキス (任 1908~1916)

- 1908 老齡年金法
- 1910 人民予算可決=富裕層への課税強化 → 貴族院NO! → 庶民院解散、2度の解散総選挙
- 1911 予算通過、議会法制定 → 庶民院の優位性確立
国民保険法 → 失業保険・健康保険制度充実
- 海軍拡張提案 by ロイド=ジョージ蔵相 → ドイツと建艦競争
- 1914 アイルランド自治法成立 but 北アイルランド反対 vs. シン=フェイン党
- 1914. 8. 4 独へ宣戦布告(「独が中立国ベルギーへ侵攻」)
- 1916. 1 徴兵制導入
- 1916. 4. 24 シン=フェイン党:イースター蜂起 → 7日で鎮圧、独立への気運高揚
- 1916. 12 総辞職



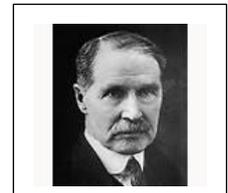
ロイド=ジョージ (任 1916~1922 自由党)

- 1916. 12 首相就任 → 総力戦体制構築
- 1918. 12 総選挙 → シン=フェイン党 73/707 議席獲得 → 独立主張、登院拒否
- 1919. 1 パリ講和会議出席 → ヴェルサイユ体制構築に尽力
- 1919. 1 アイルランド国民議会開催 → アイルランド共和国樹立宣言 → 戦闘状態
- 1921. 12. 6 英-アイルランド条約 → 1921. 7 休戦、
- 1922. 10. 19 保守党離反 → 総辞職



アンドルー=ボナー=ロー (任 1922~1923 保守党)

- 1922. 12. 6 アイルランド独立 → アイルランド自由国(女王を共通の元首とする同君連合、英自治領)
北アイルランド議会存続 → 北アイルランド内戦へ



仏: 第三共和政 (1870~1940)

- 1875 第三共和国憲法制定 (三権分立、二院制、任期7年大統領制) but 政情不安定…
普仏戦争敗北→不況… ビスマルク外交→孤立… 不満は政府へ、ユダヤ人へ…

国内

- 1887 ブーランジェ事件: 対独強硬派・元陸相 ブーランジェ が反独感情を利用してクーデター
→ 失敗、ベルギー亡命・自殺
- 1894 ドレフュス事件: ユダヤ系 ドレフュス 大尉スパイ容疑、独のスパイとして終身刑、1896 真犯人判明
But 軍部はあくまでドレフュス有罪、反ユダヤ主義扇動→1899 特赦→1906 無罪

ゾラ 「私は弾劾する!!」

ヘルツェル (1860~1904 ユダヤ人ジャーナリスト、ドレフュス事件に衝撃) → シオニズム運動始める…

- 1895 労働総同盟: 議会主義否定、ゼネスト中心直接行動による社会革命 (サンディカリズム) 主張
- 1901 進歩的共和派 → 急進社会党結成
- 1905 社会主義団体結合 (労働総同盟の参加なし) → フランス社会党結成
政教分離法: 教会への国費出費無し=カトリックの政治介入を断つ → 財政状況改善、政情安定

対外

1888 独：ヴィルヘルム 2 世即位(1888~1918)

1890.3 独：ビスマルク辞任、ヴィルヘルム 2 世親政 → 行動の自由を、求めて再保障条約更新拒否
→ 仏：露へ接近、露へ投資=仏の国際的孤立解消

1891 露仏同盟 → 1904 完全な軍事同盟へ教化

この頃、英：アフリカ縦断政策 vs. 仏：アフリカ横断政策

1898 ファショダ事件 → 両国平和的解決 → 1904 英仏協商(英：エジプト、仏：モロッコ優越権、vs. 独)



独：ドイツ帝国、工業化に成功…

1871. 1. 18 ドイツ帝国成立 ヴィルヘルム 1 世:63 歳で即位

1888. 3. 9 ヴィルヘルム 1 世:90 歳で死去 → 3/9 息子フリードリヒ 3 世即位(56 歳、ガン)6/15 死去

1888. 6. 15 フリードリヒ 3 世の息子ヴィルヘルム 2 世即位(29 歳)

ルール炭田労働者ストライキ → ヴィルヘルム 2 世(労働者の機嫌取りたい)vs. ビスマルク

1890 社会主義者鎮圧法廃止 → 社会民主党勢力拡大、選挙に敗れビスマルク辞任 → 親政
「年老いた水先案内人に代わり私が独という新しい船の当直将校になった。」

→ 「世界政策」

①積極的対外進出 → 汎ゲルマン主義拡大

②「独の未来は海上にあり」 → 海軍大拡張=vs. 英

③活動の自由を求め再保障条約更新拒否 → 1891 露仏同盟

1897 ティルピッツ提督、海軍長官就任 → 1898 建艦法 → 大型戦艦建造へ

1899 オスマンよりバグダート鉄道敷設権獲得 → 1903 3 B 政策(ベルリン-ビザンティウム-バグダート)

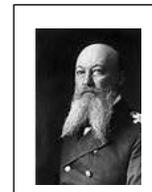
1904 仏のモロッコ進出反対(独のアフリカ植民地は価値が乏しい)、モロッコ領土保全、門戸開放要求
→ 第 1 次モロッコ事件(タンジール事件) → 1906 アルヘシラス国際会議で失敗

1911 独軍艦で威嚇 → 第 2 次モロッコ事件(アガディール事件) → 英が仏を支援、失敗
→ 1912 モロッコは仏の保護国へ

1912 社会民主党第一党へ労働者の待遇改善のための外国人排斥、好景気のための外国への侵略肯定、のちに第一次世界大戦を支持、声望失う…

主流派(カウツキー): 革命による社会主義実現を

vs. 反主流派(ベルンシュタイン): 議会と社会政策に重点を置いて社会主義実現を



露：アレクサンドル 3 世(位 1881~1894)、ニコライ 2 世(位 1894~1917)最後に残った絶対王政…

1891 露仏同盟 → 1892 蔵相ヴィッテ(任 1892~1903)起用、仏からの債務で工業化

1898 ロシア社会民主労働党結成 → メンバー全員逮捕 → 1903 創立大会

1901 社会革命党：ナロードニキの流れ、農民への土地配分を

1903 創立大会で分裂

ボリシェビキ(多数派)：メンバーを少数革命家に限定、武装革命重視 レーニン

メンシェビキ(少数派)：大衆に基礎、漸進的革命を マルトフ プレハーノフ

1904 日露戦争 → 12/5 旅順総攻撃、203 高地攻略(乃木希典大将)



1905. 1. 22 血の日曜日事件: 司祭 ガボン に率いられた平和的デモへ衛士が発砲、死傷者 2000 名以上
 3/10 奉天大会戦 (乃木希典 大将)、5/28 日本海海戦 (東郷平八郎 大将)
1905. 6 露: 形勢不利、昼食のボルシチの肉が腐っている… → 戦艦ポチョムキン号の反乱 → 鎮圧
 but 各地でストライキ、農民蜂起続出… → ソヴィエト結成…
1905. 9 ポーツマス条約 (日: 外相 小村寿太郎 露: 全権 ヴィッテ) ← 米: セオドア=ローズヴェルト 仲介
 → 日本: 韓国に対する保護権、遼東半島南部租借権、東清鉄道 (長春-旅順口) 利権、北緯 50 度以南の南樺太獲得
 but 賠償金なしに国民不満 → 日比谷焼き討ち事件
1905. 10 ニコライ 2 世 「十月宣言」 ← 自由主義者 ヴィッテ、ブルイギン 提言
 → 立法権を持つ国会 (ドゥーマ) 開設約束
 自由主義者ら: 立憲民主党など設立 → 立憲君主制確立を目指す
 革命勢力 (ソヴィエト): モスクワで蜂起 → 鎮圧
- 1906 憲法発布 首相 ヴィッテ but 保守派の反発 → 首相 ストルイピン (任 1906~1911)
 → 議会解散、革命弾圧、(農民を皇帝支持に向けるため) 農村共同体 (ミール) 解体、農地私有化促進
 独立自営農民育成… but 農民ついて行けず失敗 → 社会混乱・社会不安



米: 1890 代フロンティア消滅、世界最大の工業国 → 対外拡張へ

26 代 セオドア=ローズヴェルト (任 1901~1909 共和党) * 副大統領から昇格、環境活動家

カリブ海政策推進: カリブ海地域に不安が生じると積極的に派兵 (棍棒外交)

「穏やかに話し、大きな棒を運ぶ (大口を叩かず、必要なときだけ力を振るう)。

Speak softly and carry a big stick

1903 パナマをコロンビアから独立させる → パナマ運河敷設権 入手、着工へ

1905 ポーツマス条約 仲介 → 1906 ノーベル平和賞

1906 アルヘシラス会議 参加 → 仏支援、独牽制

国内: シャーマン反トラスト法活用 → モルガンなど独占資本規制

国民の健康増進のため → 食品・薬品規制

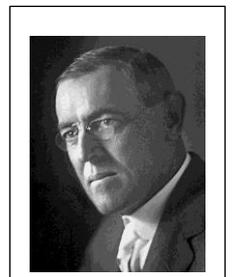
自然保護運動支援

その他: 1902 趣味の熊狩りへ → 追い詰められた老いた熊への最後の 1 発撃たず「瀕死の熊を撃つのはスポーツマン精神にもとる」 → テディベア誕生 (フルネームは Theodore "Teddy" Roosevelt)



27 代 ウィリアム=ハワード=タフト (任 1909~1913 共和党)

ドル外交: ドルで外国支援、借款を申し出、内政に関与



28 代 ウッドロウ=ウィルソン (任 1913~1921 民主党)

「新しい自由」: クレイトン反トラスト法、連邦取引委員会設立 → 独占監視

関税引下げ、労働者保護立法

「宣教師外交」: “民主的で進んだ文明を世界に広げる” → ハイチ、ドミニカ、キューバへ海兵隊派遣
 メキシコ革命介入…

1914 パナマ運河開通 → 運河管理権所有 (1999 パナマへ返還)

1917. 2 独: 無制限潜水艦作戦 → 1917. 4. 6 「勝利なき平和」対独参戦

1917. 11. 8 レーニン 「平和に関する布告」: 無併合・無賠償・民族自決 → 受け入れなければ “秘密外交暴露!”

1918. 1 ウィルソン 「十四カ条の平和原則」: 秘密外交廃止、海洋自由、民族自決、国際平和機構設立…

1918. 3 米でスペイン風邪 → 欧州戦線へ、欧州で流行… 1918. 11 終戦 but スペイン風邪流行拡大…

(学ノート P. 80~85)

19世紀末~20世紀当初 アジアの動き…

日清戦争後、清の国内では…

仇教運動(反キリスト教運動)、排外感情高揚…「このままではダメだ。変わらなければ…」

→ 変法運動: 明治維新を模範として議会政治を基礎とする立憲君主制を樹立しよう(公羊学派 **康有為**)

スローガン「変法自強」

1898 **康有為**: 11代**光緒帝**(位 1875~1908)に登用され、**梁啓超**らと変法実施=戊戌の変法=政治改革運動

but 保守派の反対 → 戊戌の政変 → **西太后**の政治復活 **康有為**、**梁啓超**: 日本へ亡命

この頃、被害運動を続ける秘密結社“義和団”(スローガン“扶清滅洋”)活動 ← 清による保護

1900.6 義和団: 北京入城 → 暴徒化、日独外交官殺害 → 清: 列強に宣戦布告!!

→ 8か国共同出兵(日・露・英・米・独・仏・奥・伊) 義和団事件

日・露主力 Why? 米: 米比戦争中、英: ブール戦争中…

1900.8.14 連合軍: 北京攻略 → 8/15 北京入城 → **西太后**: **光緒帝**を連れて西安へ逃亡…

1901.9 北京議定書(辛丑条約): 清-11か国(8か国+ベルギー・オランダ・スペイン)

①外国軍隊の北京駐兵権承認

②多額の賠償金

→ 半植民地化



日本 vs. 露西亜

朝鮮: 下関条約で独立 → 大韓帝国(1897~1910)自称 but 実態は日本による(冊封体制からの)解放…

→ 日本の影響力上昇 vs. ロシア南下政策の影響力 → 国内: 親日派 vs. 親露派

日本は考える…

「後ろ盾なくして露西亜に勝てない…」 世界では…英: イラン・アフガニスタン方面でロシアと利害対立…

→ 両国の利害一致(対ロシア) → 1902日英同盟

①いずれかが他国と戦争状態 → もう一方は中立を守る

②いずれかが2国以上と戦争状態 → もう一方は支援して参戦

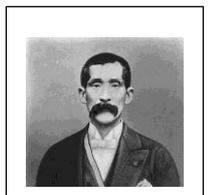
米: 日本支援を約束(ロシアの南下政策警戒)

1904.2.6 外相**小村寿太郎** → 駐日ロシア公使**ローゼン** 「国交断交」通告=日露戦争始まる

黄海海戦、旅順総攻撃、203高地攻略…

1905 1/22 血の日曜日事件 3/10 奉天大会戦 5/28 日本海海戦 6/ポチョムキン号反乱 9/1 休戦

日本: 国力の限界 露: 社会不安 → 米: 仲介



ポーツマス条約

①韓国に対する日本の保護権承認

②遼東半島南部租借

③北緯50度以南の南樺太領有

④南満州鉄道の利権獲得

⑤賠償金なし

→ 国民の不满 → 日比谷焼き討ち事件

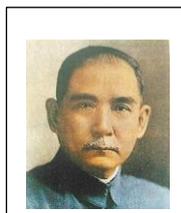
世界情勢の変化(日本の勝利→アジア諸民族の覚醒)

ベトナム: ファン=ボイ=チャウ → 東遊(トンズー)運動=日本留学呼び掛け、200人以上が日本留学

* **犬養毅**より武装蜂起の考え方を批判され人材育成の重要性を説かれる

清: **孫文** → 辛亥革命

オスマン: エンヴェル=パシャ → 青年トルコ革命



米 → 排日運動

vs. 独 → 英露接近、イラン・アフガニスタン方面で妥協 → 1907 英露協商

東アジアからロシア引き上げ → 日露接近 → 1907 日露協約

朝鮮半島 1897 大韓帝国自称、独立国とはいえどこかの列強の支援がなければ…

1904 第一次日韓協約(日本:財政、外交顧問派遣) → 不満の**高宗**:支援要請の密書を欧米列強へ送付

日本から見ると不誠実な行為…

1905 第二次日韓協約(日本:韓国の外交権獲得) → 保護国化

* 1965 日韓基本条約で無効確認=それまでは有効

→ 統監府設置(初代:**伊藤博文** 任 1905~1909) この頃より反日義兵闘争…

1907 **高宗**:第2回万国平和会議(ハーグ)へ密使派遣 ハーグ密使事件

→ 外交権回復訴え but 列強に相手にされず…退位、息子(純宗)へ譲位

第三次日韓協約(韓国軍解散、司法権・警察権・管理任免権を統監府へ委任)

要は、日本:内政権掌握

反日義兵闘争激化…



1907.7 **伊藤博文**「日本は韓国を併合するの必要なし」演説 漢城)

1909.6 **伊藤博文**:韓国統監退任、6/14 枢密院議長へ → 10/ロシアの動向を探るためハルビンへ

1909.10.26 ハルビン 伊藤博文暗殺事件 by **安重根**

* **伊藤**死去 → 日本:韓国に対して高圧的に…

1910.8 韓国併合に関する条約 → 日韓併合

①統監府廃止、朝鮮総督府設置

②大韓帝国消滅、朝鮮へ 首都名:漢城 → 京城

⇒ 武断政治へ



清 義和団事件を教訓に改革(光緒新政)へ

1901 **西太后**「外国の長所をとり中国の短所を去って富強を図る」 → 清:生き延びるための新政開始…

1905 科挙廃止 → 多くの留学生を外国(特に日本)へ派遣、新型官僚の育成

1908 憲法大綱発表、(9年後の)国会開設公約

11/14 **光緒帝**、11/15 **西太后**死去 → 12代**宣統帝溥儀**(位 1908.12.2~1912.2.12)2才で即

この頃…

民族資本:華僑となり海外進出、子弟・若者を海外留学(人気No.1は日本) → 清朝打倒!近代化推進!

1905 東京 **孫文**:中国同盟会組織、三民主義「民族独立、民権伸張、民生安定」提唱 → 革命勢力結集

1911.5.8 清:初の内閣(**慶親王**内閣)成立

but 旧態依然(大臣の多くが満洲人皇族)… → 国民失望…

民営幹線鉄道国有化宣言(近代化のための費用を英米独仏からの借款で)

but 民族資本・地方有力者:利権回収運動中 → 大反対!!

19119 革命勢力と結びつき四川暴動

1911.10.10 武昌蜂起:四川暴動鎮圧に向かった新軍が清へ反旗を翻し武昌占拠

→ 全国へ飛び火、清からの独立を宣言する省続出…なんと 14 省…**辛亥革命**勃発

* 新軍:日清戦争後創建された西洋式軍隊、日本への留学生多数、革命側に立つ…

1911.11.1 **慶親王**内閣瓦解 → **袁世凱**内閣へ(辛亥革命鎮圧のための内閣)

1911.12 南京 独立宣言をした省の代表、革命団体終結



1911. 12. 28 中華民国臨時大總統選挙 → **孫文**選出

1912. 1. 1 南京 中華民国建国宣言 (臨時大總統 **孫文**)

清: 北洋軍閥**袁世凱**へ全権委任、革命政府鎮圧期待 but 革命派と密約

①清朝皇帝の退位 ②約法の遵守

1912. 2. 12 **宣統帝溥儀**退位 = 清朝滅亡

1912. 2. 15 議場での満場一致 → 第2代臨時大總統**袁世凱**、首都南京を承認

1912. 3. 8 中華民国臨時約法制定: 「責任内閣制」「簡潔な文字で原則規定」「人民の権利・義務明確化」

「大總統・副大總統の選挙制」「司法の独立」

* 袁世凱が専制政治を行わないための歯止め

1912. 3. 10 **孫文**辞職 → **袁世凱**: 中華民国第2代臨時大總統就任

1912. 3. 11 中華民国臨時約法公布・施行

1912. 4 臨時政府を北京へ

* ここまでを**第一革命(辛亥革命)**

* 実情…

袁世凱(軍閥勢力) vs. **孫文**(革命勢力) 権力争い…

→ **袁世凱**: 臨時約法無視 vs. **孫文**: 中国同盟会を発展的解消 → 国民党結党

1912. 12~1913. 1 総選挙 → 国民党圧勝、第一党へ but **袁世凱**: 国民党指導者(**宋教仁**)暗殺、弾圧

1913. 7 国民党: 武装蜂起決行 (**第二革命**) → 失敗、11/国民党解散 → **孫文**: 東京へ亡命

1913. 10. 10 **袁世凱**: 正式大總統へ → 独裁強化

1914. 7 東京 **孫文**: 中華革命党結成

1915. 12 **袁世凱**: 帝政樹立宣言 → 内外反発 (**第三革命**) 列強も NO!

1916. 3 帝政取り下げ → 1916. 6 病死「歓迎されると思っていたのに…」

⇒ 以後、軍閥分立時代へ (~1928)

この間、周辺では…

1911 外モンゴル独立宣言 → 1924 モンゴル人民共和国成立 by **チヨイバルサン**

* 世界で2番目の社会主義国

1913 チベット独立宣言 but 英介入 → 中華民国支配下へ



※ ここから学習ノートP.98~100の内容となりますが、話の都合で中国大陸の出来事を続けます。

袁世凱死去後、混乱を極める中国大陸…

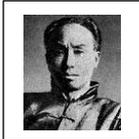
1919 朝鮮半島: 三・一独立運動 → 総督府: 武断政治から文化政治へ

4/1 大韓民国臨時政府樹立 (初代大統領**李承晩** 上海、後に重慶へ)

中国大陸: 五・四運動 → 排日運動、軍閥政府: ヴェルサイユ条約調印拒否、日本と敵対

孫文: 10/末 中華革命党を中国国民党へ改称





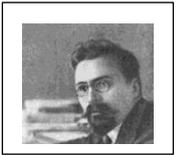
ソ連:「帝政ロシアが清朝から奪った利権は中華民国へ返還する。共に平等の立場で民族自決の運動を」

外務人民委員代理カラハン カラハン宣言

軍閥政府受入れ

* ソ連: 世界革命推進の一環として宣言発出

1921 中国共産党結成 (陳独秀 上海) ← コミンテルンの指導



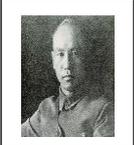
* コミンテルン(第3インターナショナル)

1919 年、世界の共産党など左翼政党がロシア共産党の指導を受けモスクワで結成。1920 年代は世界革命とソ連擁護、1930 年代はファシズムとの戦いのための指令発出、1943 連合国との協議を優先させる必要から解散。



1923 孫文: ヨッフエ(ソ連)と会談 → コミンテルンから顧問(ボロディン)を招き国民党改組

1924 国民党大会「連ソ・容共・扶助工農」← 三民主義の発展



→ 共産党員の国民党への入党OK → 第一次国共合作(1924.1~1927.8)

→ 黄埔軍官学校設立(校長: 蔣介石)

→ 「大アジア主義(日本がアジアのリーダーとなりアジアをまとめて欧米に対抗)」提唱



1925.3 孫文死去「革命尚未成功 同志須努力」← 汪兆銘が文を考える…

1925.5.15 上海 日本人経営紡績工場でストライキ 会社: 発砲、労働者射殺 → デモ

1925.5.30 上海租界 デモ vs. 英・日警察+列強軍隊 → 数十名の死傷者(五・三〇事件)



1925.7 国民党: 広東臨時政府(主席: 汪兆銘)設立 → 北伐決定(司令官: 蔣介石)

* 毛沢東も参加…

1926.7 北伐軍: 広州出発

1926.10 武昌、漢口、漢陽占領

1927.3 南京、上海制圧



* 共産党の協力で快進撃…but 国民党内部対立

共産主義OK(左派) vs. 共産主義NO(右派、浙江財閥)

1927.4.12 蔣介石: クーデター → 共産党員虐殺、左派追放(上海クーデター) = 第一次国共合作崩壊

→ 南京国民政府樹立(主席: 蔣介石) * 米英支持

* 左派(容共チーム): 汪兆銘+共産党

1927.1 広東から遷都 → 武漢政府樹立 → 1927.7 共産党排除 → 1927.9 南京政府合流

* 右派(NO! 社会主義チーム): 蔣介石+浙江財閥

1927.4.12 上海クーデター → 南京政府樹立

* 共産党

1927.8.1 武装蜂起(南昌 朱徳ほか3万人)but 失敗 * 8/1→人民解放軍建軍記念日

1927.8.7 中央軍事委員会: 紅軍創設、土地改革 → ソヴィエト政権樹立(毛沢東 井崗山)

→ 勢力拡大、基本戦略確立(毛沢東、朱徳)、

「敵が進めば我は退き、敵が休めば我は攪乱し、敵が疲れたら我は打ち、敵が退けば我は進む」

* いわゆる十六字訣に象徴される徹底したゲリラ戦術。

1931.11 中華ソヴィエト共和国臨時中央政府樹立宣言(主席: 毛沢東 瑞金)



1928.4 北伐再開 → 奉天軍閥張作霖を破り北京入城

→ 12/張学良が忠誠=北伐完成宣言

日本: 山東出兵(北伐牽制のため) → 6/(蔣介石に敗れ逃走中)張作霖爆殺事件



以後、内戦(国民党 vs. 共産党)、列強介入で混乱…

1934 国民党有利 → 10/共産党：瑞金脱出、延安へ(長征) → 1937~首都：延安、**毛沢東**指導力上昇

1935. 8. 1 共産党：8. 1宣言「内戦を停止し抗日民族統一戦線を！敵は日本だ！」

→ **蒋介石**：無視、「敵は共産党だ！」

張学良：(関東軍が満洲制圧の状況下)「敵は日本だ！」

1936. 12. 12 **張学良**：**蒋介石**軟禁、**周恩来**らと「vs. 日本」を説得 (西安事件)

→ 12/25 **蒋介石**：同意、釈放

1937. 7 盧溝橋事件 → 日中戦争へ

1937. 9 第二次国共合作 → 武漢 → 重慶… 日本軍：勝つものの輸送困難、行き詰まり…

1940. 3 **汪兆銘**政権樹立(南京)but 諸外国不承認=日本孤立化



ここで日本の動き…

1923 関東大震災(明石中学校創立)、1927 金融恐慌、1929 世界恐慌…

→不況、既成政党ダメ、頼れるのは軍部、現状を打破して欲しい…

1931. 9. 18 満洲事変 柳条湖で満鉄爆破 関東軍「**張学良**らの仕業である」→軍事行動へ

1932. 1~5 上海事変 海軍陸戦隊「上海で日本人が殺害された」→ 軍事行動へ

→ 中華民国：国際連盟へ提訴 → 1932. 2~7 **リットン**調査団：現地視察

→10/報告書発表



1932. 3. 1 満洲国建国宣言(1934~皇帝：**溥儀** 首都：新京)

1932. 5. 15 五・一五事件：**犬養毅**首相暗殺 by 海軍青年将校

1933. 2 国際連盟総会：日本の満洲からの撤退勧告(賛成42 反対1)

1933. 3 日本：国際連盟脱退(外相**松岡洋右**)

→ 日本：世界から孤立 満洲国：23の国から承認…



1936. 2. 26 二・二六事件：高橋是清蔵相ら暗殺 by 陸軍青年将校

1941. 12. 8 ハワイ真珠湾攻撃=日米開戦

* 満洲国を承認した 23 カ国

種別	国名
正式承認	日本・中華民国南京国民政府(アジア) エルサルバドル(中南米) ドイツ・イタリア・スペイン・ヴァチカン・ポーランド・クロアチア・ハンガリー・スロバキア・ルーマニア・ブルガリア・フィンランド・デンマーク(欧州)
国書交換(準承認)	エストニア・リトアニア(欧州) ドミニカ(中南米)
戦時中に承認	タイ・ビルマ・フィリピン・蒙古自治邦(内モンゴル)・自由インド仮政府

* 松岡外交

1940. 7. 17 **近衛文麿**内閣組閣拜命 外相：**松岡洋右**を抜擢

松岡「まず、ドイツとイタリアとの関係を強化すべきだ。アメリカに対しては、無用の衝突を避けるよう努力する。しかし、アメリカが、力をもって干渉してきた場合には、断固これを排除する。日本がこれまで敵対してきたソ連をも、三国同盟に組み込みたい。ドイツとソ連はすでに不可侵条約を結んでい。日本が、さらにソ連と協定を結べば、相手が4国では、アメリカも手出しができないはずだ」

1940. 7. 22 **近衛**内閣発足

松岡「外交に関しては、すべて自分に一任してほしい」 → 外務省から親米・親英派一掃

1940. 9. 9 独特使**スターマー**来日 (**リッペン**ドロップ外相：ソ連を加えた四国同盟構想も)

スターマー「ドイツは、三国同盟締結後、日本とソ連とを結ぶ、誠実な仲介者となる用意がある」

1940. 9. 19 御前会議 → 日独伊三国同盟案了承

原枢密院議長「この条約の発表によって日本の態度が明白になれば、アメリカは日本に対して経済圧迫を加え、石油、鉄を禁輸、長期に渡って日本を疲弊せしめ、戦争に耐えられないように謀るものと

思われる。」

松岡「今やアメリカの対日感情は、極端に悪化していて、わずかの機嫌取りくらいでは、回復するものではない。ただ、我々の毅然とした態度だけが、戦争を避け締めうるであろう。」

1940. 9. 27 三国同盟締結

1941. 3. 26 **松岡**→**ヒトラー**：日本とソ連の仲立ちをドイツに依頼 but ヒトラー：拒否

1941. 4. 13 日ソ中立条約

1941. 6. 22 独ソ戦会戦＝四カ国同盟案崩壊

1941. 7. 16 **近衛**内閣総辞職、外相交代

1941. 11. 26 **ハル**・ノート：「中国からの全面撤退や三国同盟の否認など」要求＝日米妥協絶望的

1941. 12. 8 ハワイ真珠湾攻撃＝日米開戦

松岡「三国同盟の締結は、僕一生の不覚だったことを、いまさらながら痛感する。これを思うと、死んでも死にきれない」